

みゆき会病院広報誌

# みゆき Miyuki Times

タイムズ

みゆきタイムズ編集委員会発行



Cure & Care

No.115

Winter 2022

# みゆき会病院

～ 地域のニーズに応じた医療者・多世代へのトータルケアを提供します ～

## 新年のごあいさつ

病院長

安藤 常浩

## contents

- 糖尿病について
- ロコモティブシンドロームと高齢世代の骨折について
- 感染性胃腸炎の予防と当院での取り組み
- 私のリフレッシュタイム
- プロフェッショナル
- 歯科の健康だより
- 地域包括ケアを支える考え方
- 「窓口サービス課」を新設しました!
- Let's 脳トレ!
- Dr.金城の脳にいい健康レシピ
- 診療のご案内
- ニューフェイス



# 新年のごあいさつ

病院長 安藤 常浩

新年、明けましておめでとうございます。令和4年がスタートしました。まずは「新型コロナ」です。今年こそ感染の収束を迎えることができるでしょうか。世界では、12月中旬の感染者数が2億7千万人以上、死者は5百万人を超えさらに急増、まさにパンデミック（世界的大流行）の渦中にあります。日本にもオミクロン株による第6波の流行があるのでしょうか。これまでの繰り返しとすれば、必ず来ると認識し、それをいかに最小限に抑えるために、それぞれの立場で努力することが必要です。私たちは多くの犠牲を払いつつも学んできました。各地にPCRセンターができ、病院でも容易に検査が受けられるようになりました。また、治療の選択肢が大分増え、リスクのある方への抗体点滴治療が普及し、軽症者から使用できる内服薬も認可の見込みです。さらには第3回目のワクチン、いわゆるブースター接種も始まっています。これらにより、重症化率や死亡率は明らかに低減していることもご理解いただきたいと思います。過剰に恐れる必要はありません。小児へのワクチン接種の課題はありますが、最終的には各自の感染対策の実践が重要です。これまでの変異株による流行で、第4波では会食の場面、第5波では家庭内や小児施設でもクラスターが発生することが分かりました。ディスタンス・マスク・換気の徹底などを中心とした感染対策を、その時点の流行状況に即した徹底度合いで継続することが肝要と考えます。当院では徹底した対策を継続し、院内対策マニュアルは改定を重ね25版に至っております。患者様の面会禁止など、大変ご心配・ご迷惑おかけしているところですが、もうしばらくご容赦いただきたくお願い申し上げます。

さて、みゆき会病院では違った形の大きな波を迎えています。「電子カルテ」の運用がまさに元旦からスタートしました。世の中では、デジタル庁創設やDX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みなど、IT化の更なる進化により国民生活の質の向上を図ろうと、政府・企業が取り組んでいます。当院も遅ればせながらITを導入し、これまでの紙カルテが廃止となります。多くの病院では電子カルテ診療が通常になっておりますが、新型コロナ等諸事情で導入が遅れました。今後は、院内の情報共有・伝達がよりスムーズな環境が構築され、診療の質の向上にも繋がるものと考えております。しかしながら円滑な運用までは、診察や会計待ちの時間が長くなるなどの状況も予想されます。ご心配・ご迷惑をおかけする可能性も懸念しておりますが、そのような事が無いように全職員一丸となって取り組んで参りたいと存じます。

さらに年内中には「64列CT」が導入予定にあります。画質がさらに鮮明となり、診断レベルがより向上します。撮影時間も短縮され、多くの患者様にご利用いただけるものと考えます。更には、心臓の冠動脈撮影が可能となり、大学病院等でカテーテル検査を受ける事なく、狭心症や心筋梗塞の診断が可能となり、診療レベルが更に向上するものと期待しております。

これからも、みゆき会病院は山形大学医学部附属病院等との連携を深めつつ、地域に根ざし住民の方々に信頼いただき、より選んでいただける病院となるよう、スタッフ一同精進して参ります。どうぞ、本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

2021年12月17日時点の情報に基づき作成しています。

# 糖尿病について



内科（糖尿病・代謝内分泌）医師 **高 窪 野 恵**

ヒトの大事なエネルギー源であるブドウ糖は体内に入ると、インスリンというホルモンの作用によって筋肉や脂肪組織、肝臓に取り込まれ、血糖値が低下します。しかし、インスリンの量が少なかったり、よく効かなかったりするとブドウ糖（血糖）を上手く利用できず、血糖値が高くなります。このようにして高血糖の状態が続くと糖尿病となり、さまざまな合併症を引き起こします（みゆきタイムズNo.112平田昭彦先生のコラムを是非あわせてご参照ください）。

我が国の糖尿病患者さんの数は最近20年間で、約20倍に増加しました。厚生労働省の推計では、糖尿病が強く疑われる人（糖尿病の患者さん）は約1000万人、糖尿病の可能性を否定できない人（いわゆる糖尿病予備軍だけでなく、糖尿病の人も含めます）も約1000万人と報告されています。すなわち、現在、日本人の約6人に1人が糖尿病もしくはその予備軍ということになります。



糖尿病患者数の状況：厚生労働省ホームページより

糖尿病の発症、または悪化を防ぐには

運動と食事のコントロールが大事であるとされ、日本糖尿病協会理事長の清野裕先生は、以下の7箇条を提唱されています。

1. バランスのとれた食生活（総エネルギーと脂肪の摂取量に注意）
2. 夜食をしない、間食をしない
3. アルコールはほどほどに
4. 適正な体重の維持
5. 毎日の食後の歩行（30分くらい）
6. ストレスの解消
7. 禁煙または節煙

食事に関しては、摂取エネルギー（カロリー）がオーバーにならない、脂肪をとりすぎない、食物繊維をしっかりとる、規則正しい食生活を守る、多くの品目をバランスよく摂るなどが大切とされています。

また、運動により体を動かすことで大量のエネルギーを筋肉で消費します。糖尿病患者さんでは、特に食後の運動が勧められています。運動は、糖尿病患者さんの食後血糖の過度な上昇を抑え、血糖コントロールの改善が期待でき、糖尿病の原因ともなる肥満の防止とその改善にも効果があることが広く知られています。特に、食後のウォーキングやプールでの水中歩行など、適度な負荷のかかる有酸素運動が、糖尿病の発症予防、重症化予防に、より効果的とされています。

皆さんも食後すぐに横にならず、30分程度、ご自宅の周りを散歩する習慣をつけてみてはいかがでしょうか。コロナ禍で、ご自宅にこもっている方も多いと聞きます。お一人では続けることが難しい場合は、ご主人、奥様、お子さん、お孫さん、近所のお友達をお誘いになり（感染予防対策も忘れずに）、地域の新発見を探してみてください。

（参考）厚生労働省ホームページ・一般社団法人日本糖尿病学会ホームページ・糖尿病ネットワークホームページ

# ロコモティブシンドローム と高齢世代の骨折について

整形外科 医師 **高田 志考**



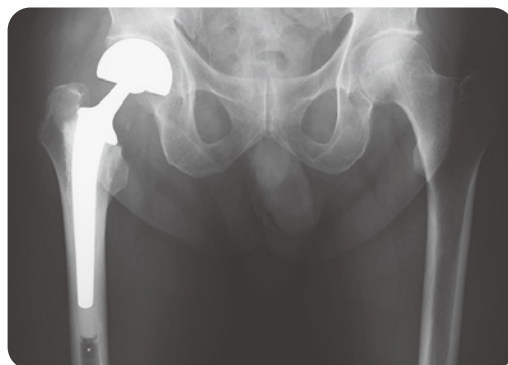
皆さん初めまして。私は一昨年の8月よりみゆき会病院で働き始め、早くも1年以上が経ちました、整形外科の一般的な疾患や、外傷の診療を主に担当させていただいております。

皆さんはロコモティブシンドローム（ロコモ：運動器症候群）という言葉に触れたことがあるでしょうか。2007年に日本整形外科学会が発表した考え方ですが、最近はテレビのCMなどでも取り上げられることがあり、耳に入る機会が増えたように感じます。ロコモティブシンドロームとは、加齢に伴う筋力の低下や、関節や脊椎の病気、骨粗鬆症などにより運動器の機能が衰えて、要介護や寝たきりになるリスクが高い状態を指しています。日常診療においても、膝や腰の痛みにより、以前より歩きにくくなったというお悩みを抱えている患者さんに多く出会います。そんな時は、鎮痛薬の内服やリハビリテーション、手術など、様々な方法で症状の改善を図ります。しかし、病院で行う治療の他に、日常生活の工夫でも、これらの悩みを軽減させることはできます。長く歩くことが少し辛いという方には、杖の使用をよくおすすめしています。長年杖を使用している方は、シルバーカーを使用するのも良いと思います。当たり前のことのように、昔から“転ばぬ先の杖”と言われるように、ほんの少し先のことを考えて備えておくことが、安全な日常生活を送る上で重要です。

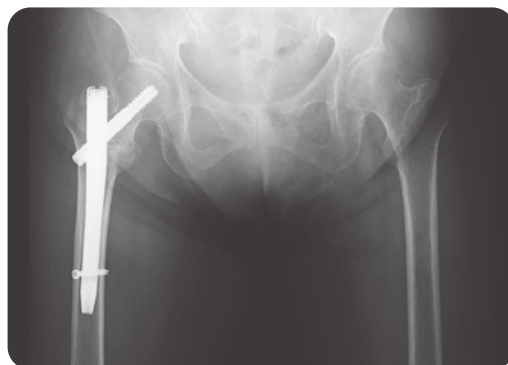
先ほど骨粗鬆症のお話をしましたが、これは加齢により骨代謝が悪くなり、若い時よりも少しずつ骨の頑丈さが失われていく状態を指します。この状態に、筋力低下による転倒のしやすさが重なることにより、ちょっとした怪我のほずが大きな骨折につながってしまいます。転んで手をついた時の手首や肩の骨折、尻もちをついた時の背骨や股関節の骨折が特に多いとされています。特に後者では、一度の転倒で寝たきりになってしまい、患者さんや家族の生活が一変してしまいます。股関節の骨折の場合、多くは除痛や歩行機能の再獲得に向けて手術を受け、術後も数か月間のリハビリテーションを行うことになります。上山市の高齢化率は全国平均より高く（2019年10月1日現在で38.8%、全国は28.4%）、高齢であるほど転倒のリスクは高まります。実際こうした骨折を受傷する患者さんは80歳から90歳代のご高齢の方が多いです。超高齢といわれる年齢層においては、やはり若く健康な世代の方に比べ、術後合併症（肺炎、心不全、脳梗塞、認知症の進行など）のリスクが高くなってしまうため、第一に怪我や骨折の予防の意識が重要になります。適度な運動による筋力の維持、転びにくい生活の工夫、介護サービスの利用などがそれにあたります。

大きな怪我はいつ襲ってくるかわかりません。地域の皆さんには、自身が暮らしやすく、なおかつ怪我の少ない健康な生活を送っていただきたいと思いながら、日々の診療にあたっています。長く健康な生活を送るため、取り組めることはないか、外来を通じて一緒に考えていきましょう。

## （骨折の術後の例）



・大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭挿入術



・大腿骨転子部骨折に対する骨接合術

手術・中材室 感染対策リンクナース **多勢 奈緒美**



ノロウイルス感染症とは感染性胃腸炎の一種で急性胃腸炎を引き起こすウイルス性の感染症です。1年を通して発生するものですが、特に11～2月の冬季に流行します。ノロウイルスは手指や食品などを介して、口から感染し、人の腸管で増えます。熱やアルコールに対する抵抗力があり、非常に感染力が強いウイルスです。感染のスピードも速く、感染から発症までの時間は約12～48時間です。症状は下痢、嘔吐、腹痛、発熱などで1～2日程続きます。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化する場合もあり、嘔吐物を吸いこむことによる肺炎や窒息の危険性もあります。またノロウイルスはワクチンがなく、治療方法も嘔吐や下痢など脱水症状に対する点滴などの治療に限られます。

私たちが日常で感染予防として行えることの1つに流水と石けん（ハンドソープ）による手洗いです。手洗いは、手指に付着しているノロウイルスを洗い流す最も有効的な方法です。料理を行う前、食事の前、トイレに行った後には石けんを十分泡立てた手洗いを20秒以上しっかり行いましょう。石けん自体にはノロウイルスを直接無くす効果はありませんが、手の汚れを落とすことにより、ウイルスを手指から剥がれやすくする効果があります。

当院では毎年、ノロウイルス感染症が流行する前に、ノロウイルスに関する勉強会や具体的な対応方法の実践練習を行っています。昨年も10月下旬に学習会を行いました。医療スタッフだけでなく、事務スタッフや保育士なども参加し、みゆき会の職員全員が感染予防に努めています。

寒さが一段と厳しくなるこれからの季節、手荒れをする方も多くなると思います。手荒れは痛みだけでなく、手洗いで汚れが落ちにくくなり細菌が定着しやすくなる原因にもなります。手洗いの後にはハンドクリームなどで保湿をして、ハンドケアも行いながら感染予防に努めていきましょう。



## 私のリフレッシュタイム

2階西病棟 看護師 **佐藤 静香**

うちの猫は寂しがり屋なこともあり、ほとんど休日は家で一緒に過ごすようにしています。どこに行くにも着いてきて、そしておやつをねだってきます（笑）

まだまだ外出には注意が必要ですが、猫と一緒にいることでとても癒されています。



2階西病棟 看護師 **渡邊 匠**

レタスとキャベツの区別もろくにつかない私ですが、少しでも炊事に携わる機会を設けるべく、深夜明けの日は必ずフレン

チトーストを作ることにはしています。朦朧とした意識の中で調理し食すので、記憶には微塵も残っていませんが、いずれ食パンを桜や菊や蝶なんかの形に切れるようになることを楽しみにしています。



検査科 科長 関 由美子

私たち臨床検査技師は、医師の指示の下で臨床検査を行う専門職です。臨床検査は、血液、尿、便、喀痰などを検査する「検体検査」と、心電図や超音波（エコー）など直接患者様に対して行う「生理検査」の二つに大きく分かります。現在、新型コロナウイルス感染症の検査については、鼻咽頭からの検体採取を行い抗原定量検査までを行っています（PCR検査については外注しており唾液や鼻咽頭ぬぐい液の採取のみを行っています）。

私たちの技術で出される検査結果は、医師が行う正確な診断と治療薬の選択等にとっても大きく関わります。そのため、24時間体制で各種の臨床検査に対応しており、常に緊張感をもってデータを監視しています。また、病



気の早期発見・早期治療という観点からも、診断に必要な検査は高度化・迅速化が進んでおり、例えばインフルエンザの検査は、以前は15分を要していました

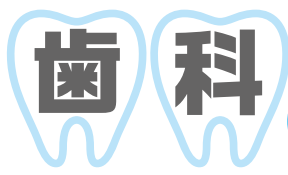


が今は数分で結果が判るようになっていきます。

また、当院では、手術前後の下肢静脈エコーを実施しています。下腿静脈に血栓（血の塊）が出来ていないかをエコーで検査し、「肺塞栓」の予防に努めています\*。

新型コロナウイルス感染症の出現で、臨床検査技師が初めてクローズアップされたことに複雑な思いもありますが、どのような状況下でも確かなデータで医療を支えるプロフェッショナルとして、より質の高い医療のため尽力していきたいと思えます。

※「肺塞栓」：肺の血管が突然詰まる病気でエコノミークラス症候群としてよく知られています。飛行機などで狭いシートに同じ姿勢で長時間座ったままになることで、足の血液循環が悪くなり静脈に血栓ができやすくなります。その後、歩き始めると血栓は足の血管から離れ血流にのって肺の血管を詰まらせてしまいます。長時間に及ぶ手術などでも、同様のメカニズムによる危険性があると言われています。



## 歯科の健康だより

vol.3



歯科診療科 副主任歯科衛生士 二位関 綾



あけましておめでとうございます。今年も皆様へわかりやすく役立つ情報をお届けしていきたいと思えます。

さて『オーラルフレイル』（口の虚弱）をご存知でしょうか。そもそも「フレイル」とは？と思われる方もいるかもしれません。人は年齢を重ねるとだんだんと体力が衰え、外出する機会が減り、病気にならないまでも手助けが必要になります。

このように心と体の動きが弱くなった状態をフレイル（虚弱）といいます。

ここで簡単にフレイルを予防して健康長寿を目指す3つのポイントを紹介します。

- ① 運動…しっかり、たっぷり歩く。筋トレ。
- ② 社会参加…友人とのおしゃべりや食事を楽しむ。前向きな気持ちで。
- ③ 栄養…バランスのよい食事。口腔機能の維持。よく噛むことも重要。

オーラルフレイルは口の機能の衰えです。フレイル予防の③栄養にもあるようにオーラルフレイルが全身の衰えにつながる事がわかってきて、オーラルフレイルの予防の重要性が注目されています。

急性期リハ作業療法科 副主任 齋藤 望



リハビリ専門職（プロフェッショナルシリーズ）の第2回目は作業療法士です。

私たち作業療法士は、日常生活にかかわるすべての活動に対して、治療や指導、援助を行うリハビリテーションの専門家です。

食べること、トイレに行くこと、着替えること、料理や洗濯など、日頃何気なく行っていることが病気やケガなどでこれまで通りにはできなくなってしまうことがあります。そんな方々に、日常生活の活動を通して「再びその方らしい生活を取り戻していただくこと」を目指してお手伝いさせていただくのが作業療法士の仕事です。

当院では、「病気やケガの初期段階の急性期」「状態が安定し機能や能力の改善がみられる回復期」「その方の能力や生活に沿った援助を行う維持期」というそれぞれの時期の方々に作業療法を提供しています。具体的には、急性期や回復期では理学療法士同様、基本的な身体機能や能力改善への練習を行います。しかし私たちがより得

意とするのは、食事やトイレ・家事動作など個人の生活に直結した活動に対するかかわりです。そのため、たとえば機能が戻らなくとも活動が行いやすくなるように道具（自助具）や福祉用具などの選定や導入、家屋改造、生活環境へのアドバイスなど、様々な視点から多様な支援やアプローチを行います。さらには医師の指示の下、手部や足部に外傷のある方への治療用装具の作製も行っています。

対象となる方の生活歴や生活環境が大きく異なり、お一人お一人へのかかわりを通して学ぶことが多いのもこの仕事の魅力です。今回は医療現場での作業療法士についてお話ししましたが、その他にも介護や福祉、保育、教育など、様々な分野における援助や予防活動、社会復帰への支援相談等で数多くの作業療法士の仲間たちが活躍しています。



これからも「その方らしい生活の獲得」を目指し、頼られる存在であるようがんばっていきたいと思います。

例えば……食べこぼしが増えた  
噛みづらくなった

滑舌が悪い、舌がまわらない  
口が渴きやすい

むせることが増えた

こうしたことが口の衰えの症状です。ひとつひとつは日常生活に大きく影響しないので、もう年だから仕方ないと思ってしまうがちです。

最後にオーラルフレイルをセルフチェックをしてみましょう。

質問事項	はい	いいえ
<input type="checkbox"/> かたい物が食べにくくなった	2	
<input type="checkbox"/> お茶や汁物でむせることがある	2	
<input type="checkbox"/> 入れ歯を入れている	2	
<input type="checkbox"/> 口が渴く	1	
<input type="checkbox"/> 外出が少なくなった	1	
<input type="checkbox"/> さきいか、たくあんくらいの硬さの食べ物を噛むことができる		1
<input type="checkbox"/> 1年に1回以上、歯科検診をしている		1
<input type="checkbox"/> 1日2回以上、歯を磨く		1

4点以上で危険性が高くなります。かかりつけ医にて相談しましょう。

（参考）一般社団法人山形県歯科医師会「健康長寿はお口から」リーフレット

# 地域包括ケアを支える考え方 Final Vol

## ～地域包括ケアと医療～



みゆき会 理事  
南館クリニック 院長  
ライフケアセンター南館 センター長

阿部 吉弘

現在の日本は少子高齢社会です。日本全体の人口は少しずつ減っていますが、65才以上の高齢者の人口はしばらく増えて行くことが予想されています。医学の進歩によって病気を患っていても元気に生活する高齢者は増えていますが、年を重ねる毎に「老い」による生活への影響は大きくなっています。介護保険の利用状況を見ると、概ね80才未満の高齢者は介護保険とは無縁のお元気な高齢者ですが、80才以上では介護保険利用者が増えていき、90才以上の方では約8割の方が介護保険を利用しています。

WHOは「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義しています。高齢期の健康に対する調査をみると、病気を持っている方、薬を飲んで治療中の方でも健康と感じている方が多くいらっしゃいます。肉体的には病気があっても精神的及び社会的には良好という感覚があるのでしょうか。旅行や外食など社会との関わり、自分での日々の意思決定などを通して生活が充実していることが重要だと思います。老いても健康な地域をめざす仕組みが地域包括ケアです。地域の高齢者の多くは病気の治療や肉体的症状の緩和のためのお薬など、医療との関わりがあります。地域包括ケアでの医療は病気治療のみならず生活を支える「治し支える医療」です。そのなかでも通院が困難になった方々への在宅医療は大きな役割を担っています。老いの終着である終末期においても、住み慣れた自宅で最期をと考えている方やご家族を支援する在宅医療の果たす役割は非常に重要なものです。地域包括ケアが充実して、年を重ねて「老い」の影響を受けながらも、健康を少しでも実感できるような地域であってほしいと思います。

## 「窓口サービス課」を新設しました!



管理部副部長  
窓口サービス課長 吉野 修一郎

昨年10月1日より、医事課から窓口サービス課が独立、新設されました。医事課では、診察などの受付、医療費の会計、そして保険請求業務など様々な業務を行っておりますが、窓口サービス課は、受付・会計など、患者様の身近でより密接に関わる業務を担う部署として、お迎えする患者様の不安が少しでも和らぐよう、親切丁寧な接遇を心がけております。

病院の玄関口で検温対応を行っている職員や、入院患者様用の荷物を取扱う窓口の担当職員の方とも連携し、来院される一人一人の状況にあわせて、患者様の気持ちに寄り添った声掛けや細やかな対応ができるよう努めています。会計では、患者様をできるだけお待たせしないよう、混雑時には会計・入力者を増やすなど、迅速な対応を行っています。また、医療制度が目まぐるしく変化していくなかで、制度などのお問い合わせにも適切に対応できるよう、日頃より業務知識の習得にも努めています。

新型コロナウイルス感染防止のため、みなさまにご不便をおかけしていることもありますが、あらゆる面で患者様に信頼される質の高いサービスを継続して提供できるよう、さらなる対応力向上を目指してまいります。今後ともよろしく願いいたします。







## 指を動かして脳を活性化しましょう！

前号までは言葉を使った脳トレを行ってきました。今回からは脳の大きな役割のひとつである「体を動かす」ということでできる脳トレをご紹介します。

皆さんは普段気をつけているつもりでも、手や足を壁やタンスの角にぶつけてしまったことはありませんか？それは自分の体を正確に動かす能力に衰えが出ているサインかもしれません。

人の体は、脳からの命令で動いています。その中でも指と手のひらは、脳が運動を命令する領域の約3分の1を占めています。このことから「指は第2の脳」とも言われています。普段行わないような運動をすることで、脳の広い範囲を刺激し活性化してみましよう。

### ♪ 「もしもしかめよ」のリズムに乗って♪

- ① 1本ずつ指をたたきます。リズムよく8回ずつ。  
 人差し指 →もしもしかめよ～ かめさんよ～♪  
 中指 →せかいのうちで～ おまえほど～♪  
 薬指 →あゆみののろい～ ものはない～♪  
 小指 →どうしてそんなにのろいのか～♪



- ② 次は2本の指を交互にテーブルをたたきます  
 (1) 人差し指と中指

- (2) 薬指と小指



いかがでしたでしょうか。「やってみたらけっこう難しかった！」なんて思った方もいらっしゃるかもしれません。慣れていない運動をすることで、脳が活発に働きます。利き手と反対の手で歯磨きすることも同じような効果があります。少しずつ繰り返しながら指を使って Let's脳トレ!!

## 脳 Dr.金城の にいい健康レシピ



### きくいも豚肉炒め

今回は「きくいも」を使ったレシピです。きくいもはさつまいもやじゃがいものようないもではありません。でんぷんはほとんど含まれず、多糖類イヌリンが多く含まれています。イヌリンはインスリンと似た作用があり、糖尿病に有効です。また、腸内細菌のごちそうであり、善玉菌を増やし、悪玉菌を減らし、健康にととても良い食材です。秋から冬期間、食の駅などで販売されています。酢漬け、みそ漬けなど、また、スープ、豚汁などにも良好です。

#### 材料(2人分)

きくいも	200g
豚肉(しゃぶしゃぶ用ロース)	100g
にんじん	30g
しょうが	10g
きざみあげ(相模屋)	20g
塩コショウ	1g
オリーブオイル	小さじ1 5cc

#### 作り方

フライパンにオリーブオイルを熱して、きくいも(くし型)、にんじん(短冊切り)、しょうが(せんぎり)、豚肉、きざみあげを炒める。塩コショウで味付けをする。

#### 100gあたり

#### 1人分

エネルギー	113kcal
エネルギー	203kcal

塩分	0.52g
塩分	0.93g

食物繊維	1.25g
食物繊維	2.3g



# 診療のご案内

2022年1月～



## 外来受付時間

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前	8:30～12:00					8:30～12:00 【整形は8:30～11:00】
午後	14:00～16:30 【小児科は14:00～16:45】					休診

## 整形外科 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前	五十嵐(1・3・5週) 膝関節	高木(1週) 9:30～11:30 股関節・リウマチ・骨代謝 (予約制)	鈴木(智) 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)	中島(2・4週) 膝関節 (予約制)	豊島 膝関節 (予約制)	土曜外来 担当医
	高田 整形外科全般 (予約制)	原田 整形外科全般 (予約制)	原田 整形外科全般 (予約制)	原田 整形外科全般 (予約制)	原田 整形外科全般 (予約制)	
	土田 手の外科・内反足 (予約制)	椎骨センター 杉田 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)	高田 整形外科全般 (2・4週のみ予約制)	土田 手の外科・内反足 (予約制)	村上 整形外科全般 (予約制)	
	村上 (新患外来) 整形外科全般	土田 (新患外来) 手の外科・内反足	土田(1・3・5週) 豊島(2・4週) (新患外来)	椎骨センター 杉田 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)	高田 (新患外来) 整形外科全般	
午後	椎骨センター※1 武井 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)			椎骨センター※1 武井 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)		
	椎骨センター 杉田 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)		丸山 (2・4週)上肢・スポーツ外来 (予約制)	椎骨センター 杉田 脊椎・骨髄・骨粗鬆症 (予約制)		
	高田 整形外科全般	豊島 膝関節	村上 整形外科全般	原田 整形外科全般	スポーツ外来(15:00～) 鈴木(朱) (3週)	

## 小児科※3 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前	早坂	早坂		早坂	早坂	
午後			佐藤(裕)		早坂 (1・2・4・5週)	

## 内科 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前	山内 心臓・循環器	佐藤(徹) 呼吸器	山内 心臓・循環器	山内※4 心臓・循環器 (新患のみ11:00まで)	平田 糖尿病	土曜外来 担当医
	三沢 消化器	高窪 糖尿病	三沢 消化器	太田※6 脳神経内科 (隔週)	有本 心臓・循環器	
	平田 糖尿病	安藤 呼吸器・感染症	平田 糖尿病	高窪 糖尿病	佐藤(徹) 呼吸器	
	高窪 (2・4週) 糖尿病		佐藤(伸) 血液		佐藤(伸) 血液	
午後	高窪 (2・4週) 糖尿病	佐藤(徹) 呼吸器	山内 心臓・循環器	佐藤(建) 呼吸器	佐藤(徹) 呼吸器	
	佐藤(伸) 血液	相澤(1・3週) 鈴木(琢)(2・4・5週) 血液	三沢 消化器	高窪 糖尿病	有本 心臓・循環器	
	平田 糖尿病	安藤 呼吸器・感染症 (第4週休診)	安藤 呼吸器・感染症	佐藤(徹) 呼吸器	安藤※2 呼吸器・感染症	
		高窪 糖尿病	高窪 糖尿病			

## 健康診断 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前				佐藤(徹)※5	安藤	

## 脳神経外科 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前		金城		小久保 (10:30～12:00)		
午後	金城					

## 歯科 外来担当医師一覧表

日曜日・祝日は休みです

	月	火	水	木	金	土
午前	午前は齋藤・佐藤(尚)、 午後は齋藤が診察いたします。					交代で診察 (予約制)
午後	休診日については、歯科へお問い合わせください。(予約制)					

■学会等の都合により、休診や担当が変更になる場合がありますのでご了承ください。

※1…武井医師の診察はすべて完全予約制です。 ※2…一般外来と禁煙外来の併診になります。 ※3…小児科の予防接種の受付は午後4:00までです。 ※4…11:00～佐藤(徹)医師が対応します。 ※5…11:00～新患診察 ※6…診察日はお電話でお問い合わせください。

得意とする分野	医師	こんな症状についてのご相談
膝関節	豊島・中島・五十嵐	膝の痛み、けが、変形など
手の外科・内反足	土田	肘から指先までと、足の全般的なけがや麻痺、変形など
脊椎・骨髄・骨粗鬆症	武井・杉田・鈴木(智)	背骨の痛み・変形、手足のしびれなど
股関節・リウマチ・骨代謝	高木	リウマチ、股関節、足関節の痛みなど
上肢	丸山	上肢(肩から手指にかけて)の機能に 関係する疾患や外傷全般を扱います
スポーツ外来 整形外科全般	鈴木(朱)・丸山 原田・村上・高田・三上	スポーツによる四肢のケガや痛み 骨・関節・筋肉の痛み、けが、変形など
脳神経外科	金城・小久保	頭痛、頭部外傷、けいれん、一時的な半身の 麻痺、一時的に言葉が出ない時など

得意とする分野	医師	こんな症状についてのご相談
呼吸器・感染症	安藤	肺炎、気管支炎、喘息、感染症全般
呼吸器	佐藤(建)	肺炎、気管支炎、喘息、いびき、日中の強い眠気など内科全般
	佐藤(徹)	呼吸器外科領域
心臓・循環器	有本・山内	狭心症など心臓血管を中心とする病気、高血圧、不整脈など
糖尿病	平田・高窪	糖尿病・生活習慣病など内科全般
消化器	三沢	消化管(食道・胃・腸)、肝臓、胆のう、膵臓領域
血液	佐藤(伸)・相澤・鈴木(琢)	血液疾患領域
脳神経内科	太田	神経難病、認知症
小児科	早坂・佐藤(裕)	小児科一般
歯科	齋藤・佐藤(尚)	虫歯、歯周の腫れ、痛みなど歯科全般

## new face 新任スタッフ紹介

- ①出身地
- ②自己紹介



管理部副部長  
窓口サービス課長 **吉野 修一郎**

① 上山市  
② 以前は酒場放浪、今は走ったり体を動かすこと。  
微力ながら、業務を通じ地域に貢献できればと思っています。よろしくお願いします。

みゆき会病院ホームページもご覧ください



QRコードは  
こちら

# みゆき会病院

〒999-3161 上山市弁天二丁目2-11 ☎023-672-8282  
ホームページ <https://www.miyuki.or.jp/hp/>

みゆき会病院

検索